



# NET WORK

会員会社紹介 Vol.54

## お客様の使いやすい車作り、 喜ばれる車作りを企業マインドに

JR東海道線茅ヶ崎駅から車で国道1号線を小田原方面へ走り、産業道路へと入る。左手にある相模川に沿うように車を走らせること約5分、架装中の小型自動車と並ぶ(株)クラタの門前にたどり着く。

取材／(社)日本自動車車体工業会 事務局次長 瓜谷優一

### 特 徴 沿 革

(株)クラタの前身は、1946年に加瀬忠次氏が国産小型自動車車体製作を専業とする自動車ボデー製作会社「倉田自動車工業株式会社」を設立したことから始まる。設立当初は、旧プリンス自動車のトラックライン工場としてトラック製造を始め、主に日産自動車の車両を取り扱ってきた。

1964年に旧プリンス自動車が日産自動車と合併、倉田自動車工業も日産自動車のトラックライン工場として発展するが、翌年、多角経営に乗り出し、日産自動車だけでなく多種多様な特装車を手がけるようになった。

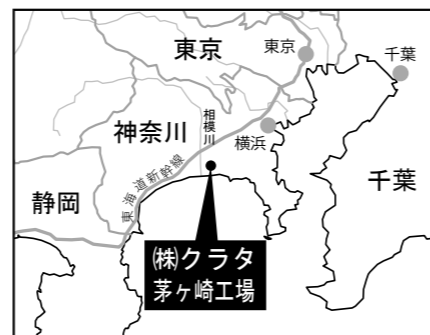
その後1972年に、市街地という立地条件を考慮し、従来のト

ラックライン工場としての規模を縮小、翌1973年、遊技場としてボウリング場を設立し、自動車事業部及遊技場ボウリング事業部を設立、自動車事業部は特装車製造を専門となった。

1999年には社名を「(株)クラタ」に変更、代表取締役社長に加瀬正之氏が就任、茅ヶ崎市に「茅ヶ崎工場」を新設した。この工場に自動車事業部の業務を移管し、日産関係の小型商用車を主力の特装工場として、現在に至っている。

(株)クラタは30年以上にわたり、一貫して特装車の製造に専念し、社会ニーズの変革に機敏に対応できる特装会社として、「品質の良い特装車作り」を企業目標に技術、技能に磨きをかけている。

最近ではこれまでに培ってきた技術の伝承にも力を注いでいる。綿々と受け継がれてきた板金等の技術こそが、クラタの歴史であり、お客様の使いやすい車作り、喜ばれる車作りの源である。これからもその技術を絶やさないよう、次世代に引継ぎ、更なる発展を目指している。



### 株式会社 クラタ

#### DATA

##### ■本社

〒240-0062 神奈川県横浜市  
保土ヶ谷区岡沢町 365  
TEL 045-331-5384  
FAX 045-331-5399

##### ■茅ヶ崎工場

〒253-0071 神奈川県茅ヶ崎市  
萩園 723  
TEL 0467-89-2760  
FAX 0467-89-2761

URL <http://www.kurata-co.jp/>

##### ■資本金 3,500 万円

##### ■従業員 30 名

##### ■事業所規模

敷地 約 2,645 m<sup>2</sup> 工場 約 990 m<sup>2</sup>

##### ■車体工業会加入

1959 年 (特種部会)



代表取締役  
加瀬正之

### 製 品

——御社で製作している主力製品についてお聞かせください

**加瀬社長** 官公庁関係では、警察庁、警視庁、東京消防所などのサインカー、道路標識車、防災パトロール車などを製作しています。メーカーでは、日産自動車をはじめとする各メーカーの架装を手がけています。

——印象に残っている車両などはありますか？

日産自動車広報からの仕事で、1982年頃に人気のあった「西部警察」というドラマで使用される

車両の製作を手がけたことがあります。製作したのはフェアレディガルウィング車、サファリ特別仕様車、これには放水ポンプなどを装着しました。どの車両も凶面がない状態での製作で、お客様の意向を汲み取りつつ、形にしました。

1985年から1995年くらいまでは、日産キャラバンジャンボタクシーを全国に向け、製作したことが印象に残っています。

——今後の抱負、御社のモットーなどをお聞かせください

30年以上の長きにわたり、培ってきた板金等の技術、技能で、これまでお客様、社会のニーズに機敏に反応し、応えてきました。

そうした技術、技能をこれからも大切にして、いつの時代にもお客様の要望に応えられる企業でありたいと思います。

お客様の要望に合わせて、シートをかえたり、ライトを装備。シート前にはテレビ、キャビネットなどもあり、くつろぎの空間となっている



### ペットリミング用車両



ペット専用のトリミング用車両。この車両の中でペットのシャンプー、カットなどができる(上)。後ろにタンク2個を積んでおり(下)、10匹ほどのペットのシャワーが可能

### サロン車



### 緊急用車両



日産マーチをベースとした緊急用車両

### 放送通信中継車



### 人

——従業員の特徴は？

当社の平均年齢は、45～6歳で、製造部門に至っては、30歳代が大半を占めています。

製造の現場では、比較的若いほうだと思います。

います。

工場の環境整備なども行い、働きやすい環境を整えることも心がけています。

——若手への教育で大切にしていることは？

匠の世界なので、それぞれの技、やり方など時間をかけて指導していますが、気持ちの部分でも「ユーザーの気持ちになって」を基本姿勢として教育しています。

——従業員の高齢化に伴う技術の継承は、どうしていますか？

3Kという言葉が語られてから10年以上が経ちます。当社もなかなか若者が定着しづらい職場ですが、板金などの製造現場は、現在、年配者から若手へ物作りが継承出来るよう、指導、育成をして



若手育成のための技術の伝承に余念がない。15～20年かかる技術、技能もある